

主催：国立環境研究所  
共催：地球環境戦略研究機関  
WWFジャパン  
東京工業大学社会理工学研究科

# 低炭素社会は 実現できるか？

DDPP (Deep Decarbonization Pathways Project) 報告セミナー  
及び 環境省環境研究総合推進費2-1402報告会

2014年10月7日(火)

13:30~17:00 (開場13:00)

入場無料 同時通訳あり

## <会場>

東工大蔵前会館 1F くらまえホール

(東急電鉄 大岡山駅下車徒歩1分)

## <プログラム>

- 13:30-13:40 開会の挨拶  
藤田 壮 (国立環境研究所)  
ローレンス・トゥビアナ (フランス外務省COP21特使)  
竹本 明生 (環境省)
- 13:40-13:50 本セミナーの趣旨  
増井 利彦 (国立環境研究所)
- 13:50-14:10 DDPPの概要  
エマニエル・ゲーリン (持続可能な開発ソリューションネットワーク (SDSN) )
- 14:10-14:30 日本のDDPPの概要  
大城 賢 (みずほ情報総研株式会社)
- 14:30-14:50 2030年に向けた気候目標 ~NGOの視点から~  
山岸 尚之 (WWFジャパン)
- 14:50-15:10 2°C目標達成へ向けて~カーボン・バジェットと資源循環の観点から~  
倉持 壮 (地球環境戦略研究機関)
- 15:10-15:30 日本における温室効果ガス排出量の大幅削減を実現する新たな社会発展の可能性  
芦名 秀一 (国立環境研究所)
- 15:30-15:40 休憩
- 15:40-16:50 パネルディスカッション  
エマニエル・ゲーリン、大城賢、山岸尚之、倉持壮、芦名秀一、増井利彦
- 16:50-17:00 閉会の挨拶  
塚本 直也 (地球環境戦略研究機関)

## 登壇者

### 藤田 壮

国立環境研究所 社会環境システム研究センター センター長  
1983年東京大学都市工学科卒業、ペンシルバニア大学院都市計画修士、東京大学博士（工学）。都市地域開発計画業務等を経て、大阪大学助手、同助教授。東洋大学教授、国立環境研究所室長を経て現職。内閣官房環境未来都市推進協議会委員他を兼任。専門は環境システム学、都市環境計画、環境技術評価、都市産業共生システム。

### ローレンス・トゥビアナ

フランス外務省COP21特使、パリ政治学院持続可能な開発センター教授及びセンター長、コロンビア大学教授  
パリ政治学院を卒業し、博士号を取得。1997年から2002年に、地球環境問題に関するプロジェクトリーダーならびに首相アドバイザーを勤める。持続可能な開発・国際関係研究所（IDDRI）の創始者。

### 竹本 明生

環境省地球環境局研究調査室長  
1992年環境庁入庁。2000年から2003年まで外務省OECD日本政府代表部（在フランス）、その後環境省で気候変動の国際交渉など地球環境政策等を担当、2011年7月からアジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）事務局長（在神戸）、2014年7月から現職。

### 増井 利彦

国立環境研究所 室長／東京工業大学大学院 連携教授  
1997年大阪大学大学院修了。1998年国立環境研究所研究員。2000年に東京工業大学併任助教授、2006年より現職。環境省中央環境審議会2013年小委等のメンバー。

### エマニエル・ゲーリン

持続可能な開発ソリューションネットワーク（SDSN）副ディレクター、コロンビア大学地球研究所 上級スタッフ  
パリ政治学院にて環境経済学、開発経済学や政策科学、国際関係論を学ぶ。フランスや欧州委員会など多くの政府に対してエネルギーや気候政策に関してアドバイスを提供してきており、現在は、エネルギーや気候政策に関してSDSNを先導し、DDPPの運営にも関わっている。

### 大城 賢

みずほ情報総研株式会社 環境エネルギー第1部 コンサルタント  
2009年慶應義塾大学理工学研究科修了。2010年にみずほ情報総研入社。2012年より東京工業大学社会理工学研究科後期博士課程在籍。

### 山岸 尚之

WWFジャパン（公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン）自然保護室 気候変動・エネルギーグループリーダー  
2001年に立命館大学国際関係学部卒。2003年米ボストン大学大学院・国際関係論・環境政策の修士号取得。以降、WWFジャパンにおいて、気候変動・エネルギー分野での国内政策および国連会議での提言活動に主に携わる。

### 倉持 壮

地球環境戦略研究機関 気候変動とエネルギー領域主任研究員  
オランダ・ユトレヒト大学研究員（博士号取得）を経て2011年にIGESに入所。国内の中長期におけるCO2排出削減策の技術・経済性評価から、発展途上国への日本の気候資金の詳細な分析に至るまで、国内外のエネルギーと気候政策に関する研究を幅広く行っている。

### 芦名 秀一

国立環境研究所 主任研究員  
2006年東北大学工学研究科修了、博士（工学）。2006年より国立環境研究所にて勤務し、2014年より現職。専門は機械・システム工学。日本およびアジアにおける国及び都市スケールでの低炭素社会およびその実現のための道筋検討研究に取り組んでいる。

### 塚本 直也

地球環境戦略研究機関 事務局長／統括研究プログラムマネージャー  
東京大学理学部物理学卒業後、1985年に環境庁（当時）に入庁。その後、2005年にジョンスホプキンス大学で修士号（環境科学）を取得。2014年7月に公益財団法人地球環境戦略研究機関統括研究プログラムマネージャー/事務局長に着任し、気候変動や中国との二国間関係に取り組んでいる。

## DDPPとは？

世界の平均気温を産業革命前と比較して2℃以下に抑えるという目標（2℃目標）を達成するためには、21世紀後半には温室効果ガスの排出量を0に抑える必要があり、そのためには、今世紀半ばまでにエネルギーシステムの大幅な転換が必要となります。

Deep Decarbonization Pathways Project（DDPP；大幅な炭素削減経路の探索計画）は、この2℃目標の実現に向けて、各国が低炭素社会への移行を理解し、どのように実現するかを提示することを目的として、Sustainable Development Solutions Network（SDSN）とInstitute for Sustainable Development and International Relations（IDDRI）の支援で2013年に立ち上げられたプロジェクトです。現在、日本を含めた15カ国の研究機関のほか、International Energy Agency（IEA）などの国際機関が参画しています。

DDPPでは、2050年までの温室効果ガス排出量の大幅削減の技術的な可能性を2014年報告書としてとりまとめ、2014年9月に国連で開催される気候リーダーサミットに提出する予定です。また、2015年上半期には、より包括的な2015年報告書を取りまとめ、報告する予定です。

各国の中間報告書などは、  
<http://www.unsdsn.org/what-we-do/deep-decarbonization-pathways/>  
からダウンロード可能です。

## お申し込み

お申し込みは以下のURLにアクセスし、申し込みフォームに必要事項を記入して送信してください。

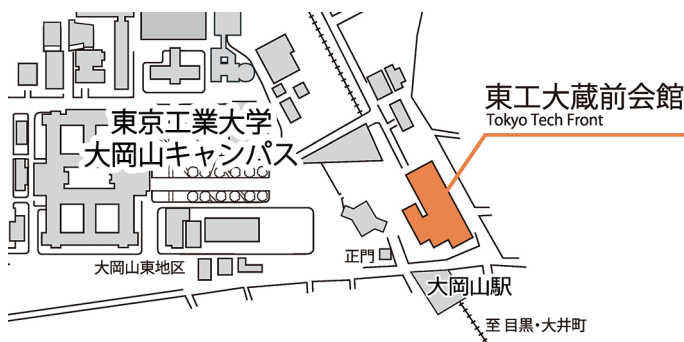


URL : <http://goo.gl/XH6ais>

※PC、スマートフォンからアクセスしてください。もしくは、フルブラウザで読み込む機能のある携帯からアクセスしてください。

## アクセス

東工大蔵前会館 1F くらまえホール  
東急目黒線・大井町線 大岡山駅中央改札下車 徒歩1分



〒152-0033 目黒区大岡山2丁目12-1  
TEL 03-5734-3737（インフォメーション）

## お問い合わせ

独立行政法人国立環境研究所  
〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2  
E-mail : [ddpp@nies.go.jp](mailto:ddpp@nies.go.jp)